

ちよっと
ひといき...

茶ぐわゆるんたく

153



首里・那覇を結ぶ 要路・真栄原

左上の写真は、1969(昭和44)年の真栄原十字路です。付近には嘉数小学校や中学校、キングスクール(現・沖縄カトリック小学校)の教育施設があり、文具店や薬局、美容室、写真館などの店舗がありました。

式開通するまでは、国道330号としての役割も果たしてきました。左下の写真は、現在の真栄原十字路です。歩道や車道、側溝も整備されて街の雰囲気も変わりました。現在と戦前の十字路の位置は多少異なりますが、交通の要路の役割は戦前から変わらず、また通学路として利用する子ども達の元気な姿も変わりありません。

【問合せ】

市立博物館 ☎870・9317



▲真栄原十字路 1969(昭和44)年
右側の書店側を行くと佐真下へ、左側の内張所側を行くと嘉数へ向かいます。



▲現在の真栄原十字路 2016(平成28)年

ぎのわんの 歴史・文化遺産を歩く

其の29

はじめに

今回は昨年に実施した発掘調査の成果を速報として紹介したいと思います。今回紹介するのは「喜友名後原(クシバル)丘陵古墓群」という比較的古いお墓が集中する遺跡地に所在する掘込墓です。

調査の成果

お墓は大きく分けて墓室と墓庭で構成されており、今回の調査ではまず墓庭の造り方(造成方法)を確認するために地面を掘り下げました。すると、墓庭のほぼ全面で岩盤を粗く削って大まかな平坦面を造っていましたが、古墓の正面付近では丁寧に岩盤を削り出して墓口(墓室出入口)を設けていることが確認できました。

また、墓口の手前に設けられた二段の切石や蓋石(墓口を塞ぐ石)に関わると思われる溝も見ることができました。

そして、墓庭の調査がある程度進むと墓室の調査も本格的に始めてい



岩盤を削り出した墓口



墓口手前の切石や溝



墓室に納められたウシの下顎骨

【問合せ】文化課 893・4430

きます。墓室には多くの厨子などが安置されていたので、すべて搬出した後に掘削を開始しました。墓室でも造成方法を確認したところ、地盤である岩盤の隙間を石粉(イシグー)で埋めたのち平坦にして床面を造っていることが分かりました。さらに、墓室には動物の骨が納められている状況も見られました。

以上が今回の調査速報となりますが、今回は出土品が比較的少ないため、現段階で古墓が造られた時期が明確にできていません。また、墓室に動物骨が納められている理由も分かっています。今後は資料の分析を進めて、これらの謎に迫っていくこととなります。

ところで、今月二十八日は旧正月です。皆さんも親戚の方にご先祖様やお墓のことなどを尋ねて先人たちに思いを寄せてみるのはいかがでしょうか。